

平成 20 年度

第 15 回おきなわ環境交流集会

事業報告書

沖縄県文化環境部環境政策課

1. おきなわ環境交流集会の目的

おきなわ環境交流集会とは、持続可能な社会の実現に向けて、沖縄県内における環境保全活動がさらに盛んになるための情報・意見交換や相互交流の場を提供しようと開催されているもので、今年度で15回目を迎えます。具体的には、以下の3点を主な目的に据えています。

- ① 県内で環境保全活動に取り組む様々な事例を知り、自分たちの今後の活動のヒントとすることで、県内の環境保全活動をさらに活性化させる。
- ② 活動発表やワークショップを通して、各団体の交流を促進し、県内の環境保全活動のネットワークやパートナーシップの強化を図る。
- ③ 県民環境フェアの一般来場者に対して、県内環境保全活動の情報を提供し、こどもエコクラブ¹サポーター等との交流促進や、環境保全活動への参画や意識啓発の向上を促す。

2. おきなわ環境交流集会の概要

- ① 名称：第15回おきなわ環境交流集会
- ② 日時：平成20年11月30日（日） ※2008おきなわアジェンダ21 県民環境フェアと同時開催
- ③ 会場：ジャスコ南風原店 屋内イベント広場
- ④ 主催：沖縄県
- ⑤ プログラム内容：

アイスブレイク【10分】

初対面の参加者同士が打ち解け合えるような、体を使ったゲームを行いました。

環境保全活動に取り組む団体の活動発表【60分】

与那原町「あかぎ児童館こどもエコクラブ」・県立北中城高等学校・県立宮古高等学校・NPO法人沖縄エコツーリズム推進協議会・明治乳業株式会社の計5団体が、パワーポイントや模造紙を使って、日頃取り組んでいる環境保全活動について発表を行いました。



¹ こどもエコクラブ：こども（幼児～高校生）が誰でも参加できる、環境活動クラブのこと。2人以上の仲間（メンバー）と、活動を支える1人以上の大人（サポーター）で構成される。「こどもエコクラブ」事業を通じて、環境省、県、市町村、団体・企業等が、地域における子どもたちの自主的な環境学習や実践活動を支援している。沖縄県では平成20年12月時点で、43クラブ・約1,100人が登録をしており、本島・離島で様々な活動が展開されている。

県民環境フェア出展団体取材【15分】

「エコ活動のヒミツを探れ！～チームエコ記者の突撃取材」と称し、4グループに分かれた参加者がエコ活動取材する記者に扮して、予め内諾を得ていた4団体に取材を行いました。

取材結果のまとめワークショップ【30分】

取材をした際の質問項目である「どんなエコ活動をしているのか」「エコ活動でどんないいことがあったか」「どんな悩みや困ったことがあるのか」「みんな(=取材をしている子どもたち)にどんなことを期待しているのか」の4点を整理すると共に、「取材の結果を自分たちのエコ活動にどうつなげていきたいか」を話し合い、模造紙にまとめました。

●ここがポイント！

「環境保全活動に取り組む団体の活動発表」では、NPO法人や民間企業の発表が初めて実現しました。また、「県民環境フェア出展団体取材」および「取材結果のまとめワークショップ」は、今回のおきなわ環境交流集会にて新設された企画です。

これらは、昨年度の事業報告書 P18「おきなわ環境交流集会のさらなる発展に向けた考察」にて提案された、「提言1 環境保全活動への関心が高い企業とのつながりを検討する」を反映する形で、誕生しました。

⑥ 参加者

所 属	大人	子ども・児童 生徒・学生	合計
あかぎ児童館	2	6	8
県立北中城高等学校	3	10	13
県立宮古高等学校	1	3	4
NPO 法人 沖縄エコツーリズム推進協議会	1	0	1
沖縄明治乳業株式会社	2	0	2
愛星ネットワーク	4	13	17
気候アクションセンターおきなわ	1	0	1
沖縄電力株式会社	1	0	1
ペダリストクラブ プラネット・チャオ	1	0	1
琉球ジャスコ株式会社	1	0	1
NPO 法人沖縄ホールアース研究所スタッフ	6	0	6
一般来場者	9	6	15
合 計	32	38	70

3. おきなわ環境交流集会の詳細内容

■あかぎ児童館こどもエコクラブ 活動発表

(発表者 与那原町立与那原中学校 2 年杉本りなさん・与那嶺葉月さん)

毎年参加して頂いているあかぎ児童館こどもエコクラブは、今年も子ども 6 名、引率（サポーター）2 名の計 8 名という大人数での参加でした。代表して 2 名の発表者がパワーポイントを使って日頃の取り組みを紹介しました。



あかぎ児童館こどもエコクラブでは、子どもによる子ども達のための地球にやさしい活動をしています。現在 69 名の登録があり、うち子どもが 36 名、サポーターが 33 名です。エコキッズ 15 名・エコジュニア 13 名・エコリーダー 8 名・エコサポーター 33 名です。今年で結成 9 年目になります。

11 月 1 日に第 10 回あかぎフェスティバル&エコまつりを開催しました。毎年エコクラブ員が中心になって運営しています。その中で好評だったのが「あかぎくるくる町」です。「あかぎくるくる町」はリサイクルの模擬社会です。「役場」で登録して住民となり、「銀行」で流通硬貨である「エコマネー」をもらいます。それを使いゲームランドでゲームを楽しんだり、手作り工房で工作を楽しんだり、エコマートで買い物をしたりできるのです。遊びながら環境について考えて欲しいという理由で、リサイクルを意識した遊びを取り入れています。

遊んでお金がなくなったら、ハローワークで仕事を探すのです。役場や銀行、喫茶店やエコマートで働いて給料をもらいます。遊びすぎてお金がなくなってしまう子どもや、働いてばかりでお金がたくさん溜まっている子どもがいておもしろかったです。

また、食べ物や飲み物の販売時には、リユースカップを使うことによりゴミ減量化に成功しました。収益金はエコクラブの活動費にあてられます。

たくさんの人達に支えられて、ここまで活動を続けてくることができました。子どもたちが変わり、親が変わり、地域が変わりはじめていると実感できるようになりました。美しい未来のためにこれからもみんなで手を取り合いながら、活動を続けていきたいと思えます。

◎参加者からのコメント

(会場より) 他の地域にまで出かけていき、環境に関する勉強をすることは、とつてもすばらしいと思います。

■県立北中城高等学校 活動発表

(発表者 2 年特進クラス 10 名)

県環境教育プログラムのモデル校のひとつである県立北中城高校は、地球温暖化問題を「生物」「地学」「物理」の 3 つの分野から研究し実験を行い、まとめた結果を用いながら、活動内容を発表しました。様々な方向から地球温暖化問題に迫る発表を、他の参加者は食い入るように聞いていました。



北中城高校では、生物、地学、物理の 3 つの分野から環境問題について考えてみました。

「地球温暖化は地球にとって悪いことか」をテーマに、肯定派と否定派にわかれてディベートを行いました。普段、地球温暖化は地球にとって悪いことだと思っても、あえて必ずしも悪いことではないという反対の立場から地球温暖化問題を考えることは、非常に勉強になりました。

また、今年と 20 年前・40 年前の気温データを比較してみました。データの比較から、今は昔より 1 日の気温差があまりないということや、冬の方がその傾向がより顕著ということが見て取れます。ここから、地球温暖化は温室効果物質の増加が原因だという考察結果を出しました。

地球温暖化の原因の 1 つとして考えられている二酸化炭素の温室効果を実際に確かめる目的で、二酸化炭素を多量に含む空気と含まない空気、温度変化の違いを比べるという実験を行いました。

実験方法は、

- 箱を 2 つ用意し、1 つには二酸化炭素を多量に含む空気を充填させ、もう 1 つには二酸化炭素を含まない空気を充填させる。
- 2 つの箱を同時にライトで照らし、30 秒ごとに温度を計測。
- ライトのスイッチは、60 秒ごとに ON と OFF を切り替える。
- 30 分間計測を続ける。

実験から、

- 2 つの箱の温度差は最大 3.5℃。
- ライト ON の時の 2 つの箱の温度差は 1.52℃、ライト OFF の時は 1.79℃。

という結果が出ました。以上の結果から、

- ①二酸化炭素を多量に含んだ空気は温度上昇が大きい
- ②二酸化炭素を多量に含んだ空気は熱放射を抑えている

ということが言えます。

以上のことから、二酸化炭素は温暖化に影響を与えていることがわかるので、リサイクルや省エネの取り組みを進めるとともに、化石燃料に頼らない新エネルギーの開発・利用が必要になってきます。

◎参加者からのコメントおよび質疑応答

(会場より) 本当に二酸化炭素に温室効果があるという実験結果は大変参考になりましたし、よく分かりました。その結果を踏まえて、次にどのようなアクションをするかまで考えていただければと思います。例えば紙の使用を抑えるとか、使わない電気を消すなどの呼びかけは学校内で行えると思います。

(発表者) 生徒会が中心となり、使わない電気を消す取り組みはしていますが、その他の取り組みもできるようにしたいと思います。

(会場より) 同じ環境問題を、生物、地学、物理の 3 つの方面から取り組む点がすごいと思いました。私たちもいろいろな方向から環境問題に取り組もうと思っているので、大変参考になりました。



子どもから大人まで幅広い世代が発表を見つめました

■県立宮古高等学校 活動発表

(発表者 自然クラブ 3名)

遠く宮古から、生徒 3 名・引率の先生 1 名が参加されました。宮古高校は、すべての活動に関して、具体的な数字を明示しながら良かった点と改善すべき点を挙げ、自分たちの活動を一つひとつ振り返り、さらに良くしていこうという姿勢に共感を覚える参加者も多かったようです。



宮古高校自然クラブは、生徒会のグリーン・デイ活動の延長として活動を開始しました。活動内容は、紙資源の重量を量ることで伐採されている木の本数を知り、毎月排出されるゴミの量を量り数字にしています。そして環境への影響を身近に感じています。

例えば学校で排出されるゴミの量は、月平均で 2.7 トンに及ぶことがわかりました。この数字を身近に感じ、意識的にゴミを減らす一人ひとりのちょっとした心がけが重要だと感じています。ゴミの量を量る活動を継続していき、学校内に活動内容を発信していくことが今後の課題です。

その他、募金活動や MY 箸運動、ゴミの分別を校内に呼びかけました。募金は半分以上のクラスから集まり、全校あわせて 10,863 円集まりましたが、目標金額に達したクラスが 1 つもなかったのが残念なところです。

MY 箸運動は森林伐採への関心を持ってもらうことを目的として始めました。各クラスへの呼びかけと、アンケート実施を運動の柱として行いました。調査から、MY 箸利用者が全体の半数に満たないこと、理数科には MY 箸利用者が多いということがわかりました。しかし、MY 箸利用者が全体の半数に満たないのが残念なところです。

ゴミ分別活動の中で、各クラスでの分別状況も調査しました。分別状況は良かった反面、調査をしっかりと行わないクラスがあったことが今後改善していくべき点です。

その他の活動として、環境活動家を招いての講演会の実施や、バイオエタノール燃料について理解を深めるために説明会や施設見学を実施しました。

最後に、私たちにできることとして以下の 7 つを挙げたいと思います。

- ① 紙は裏面まで使用する。
- ② ゴミの分別をしっかりと行う。
- ③ マイボトル、マイ箸を持参する。
- ④ お弁当を買うときは、マイバッグを使用する。
- ⑤ 食べ残しをしないようにし、生ゴミを出さない。
- ⑥ 教室を移動する時は、電気・扇風機等の電源を消す。
- ⑦ 出来るだけ徒歩、自転車通勤を心がける。

◎参加者からのコメントおよび質疑応答

(会場より) 学校内で出るゴミの量を量っているということでしたが、どのように量ったのでしょうか。

(発表者) 市内の業者に協力してもらうことで、量ることができました。

(会場より) 私が宮古島に行った時、粗大ゴミが放置されているのをよく見かけました。粗大ゴミの処理はどのようにされているのでしょうか。

(発表者) 学生なので、ゴミ処理には関わっていませんが、知っている範囲で答えたいと思います。粗大ゴミは、清掃センターで燃やすことになっています。しかし不法投棄が多いので、地域と連携して取り組んでいけたらと思っています。

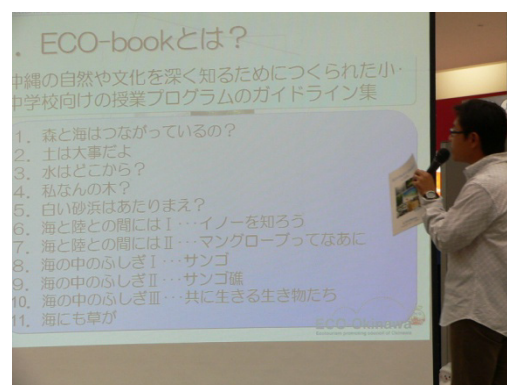


さながらエールの交換のように、高校生同士が互いの発表について感想を述べました

■NPO法人沖縄エコツーリズム推進協議会 活動発表

(発表者 山岸豊氏)

沖縄の自然や文化を深く知るために作成された小・中学校向けの授業プログラムのガイドライン集の紹介を中心に発表が行われました。発表の途中で会場に意見を求めるなど、実際に出席授業を行っているかのような明るい雰囲気の発表に、特に中学生や高校生の来場者が引き込まれていました。



沖縄エコツーリズム推進協議会では、ECO-book (ECO-Teacher's Guidebook) というものとプログラム内容をご紹介させて頂きたいと思っております。

ECO-bookとは、沖縄の自然や文化を深く知るためにつくられた小・中学校向けの授業プログラムのガイドライン集です。小中学校の特別活動（野外授業、宿泊学習や修学旅行）とセットで、事前・事後に実施することで、より深みのある、学習効果の高い授業プログラムの実施が期待できます。

私たちは、教室とフィールドをつながたいという考えのもと活動しています。一例として「森と海はつながっているの?」というプログラムをご紹介します。

まず、沖縄の森とサンゴ礁の海の様子を写真を使って見ていただきます。次に、つながるってどういうことということで、家と学校をつないでいるものは「道」という紹介をします。

ここで、「では森と海をつなげているものは何?」と生徒に質問します。生徒からは、「魚」「石」と様々な意見が出て来るなかで、「川」とか「水」といった意見も出てきます。

そして人工的につくった山に水をかけ、木の生えていない山がどうなってしまうかということ、実験を通して伝えます。砂やサンゴのかけらなどを詰めたペットボトルに泥水を注ぎ込み、反対の穴から出てくる水の色を確かめる実験を行います。

実際に出てくる水は、とてもきれいな色をしています。こうした一連のプログラムを通じて、海岸の砂浜やサンゴの役割を学んでいきます。

◎参加者からのコメントおよび質疑応答

(会場より) マングローブに関してどういった内容のプログラムがあるのか、もう少し教えて頂けますか?

(発表者) 昨年は北中城中学でマングローブに関するプログラムを行いました。マングローブの葉、幹、根の写真を使い、ゲームをしながらマングローブの種類を覚えてもらいました。その他オーダーメイドとして、ご要望に応じてプログラムを作ることができます。

■沖縄明治乳業株式会社 活動発表

(発表者 製造部生産管理課課長 長坂信彦氏・班長 上地哲史氏)

普段スーパーなどでよく目にする商品から、どのようなものが廃棄されているのかということ、実際にリサイクルされて出来上がった製品を使いながら、分かりやすい説明が行われました。特にリサイクル率に関して詳しい数字を挙げたところなどは、子どもたちだけではなく大人の参加者の興味を強く惹きつけていました。



沖縄明治乳業株式会社では、明治酪農牛乳・明治赤箱・明治健骨家族・明治無脂肪・ネスレコーヒー・ネスティー・ブルガリアヨーグルトなど、多種多様な製品を製造・販売しています。

そして、製品化される過程で廃棄される主なものは、以下の通りです。

- ・紙類
- ・プラスチック類
- ・廃棄ミックス
- ・茶葉
- ・金属くず
- ・廃油
- ・排水汚泥

廃棄されるもののうち、一番多いものは食品残さ類で、全体の 64%にのぼります。

廃棄物に関して、私たちが行っているリサイクル処理の一部として、食品（アイスクリーム）とプラスチックのリサイクル処理の工程をご紹介します。

◎食品（アイスクリーム）リサイクル

- ①廃棄されたアイスクリーム
- ②機械に投入され、米ぬか等と混ぜられる
- ③40℃～60℃で発酵
- ④飼料が出来上がる

◎プラスチックリサイクル

- ①工場で廃棄されたプラスチック
- ②機械で細かく粉砕
- ③プラスチックに色をつけ溶かす
- ④溶かしたプラスチックをひも状にする
- ⑤切ってできあがるのがペレット
- ⑥ペレットは再利用されるプラスチックの基本原料となる

◎参加者からのコメントおよび質疑応答

(会場より) リサイクル活動を活発にされているようですが、どのくらいの割合でリサイクルされているのか、具体的な数字を教えてください。

(発表者) 廃棄物全体の 85%~87%はリサイクルしています。食品残さに関しては、100%リサイクルしています。また、廃プラスチックに関しても 100%リサイクルしています。リサイクル出来ないのは、事務所などでゴミ箱に捨てられるタイプのゴミだけです。



大人の方からも突っ込んだ質問が寄せられました

■ 活動発表等のふりかえり

◎良かった点

- ・こどもエコクラブ／高等学校／NPO法人／民間企業と、それぞれ立場が異なる主体による発表が実現したことにより、エコ活動が有する多様性を確認でき、交流や意見交換を目的とする本交流集会の趣旨が十分に生かされる形となった。
- ・会場が人の往来の多い店内イベント広場であったため、単に発表団体の関係者だけが参加するのではなく、会場周辺にいた一般の買い物客等も気軽に立ち寄り、発表を聞いたり、ワークショップの様子を見学できる空間ができあがった。

◎改善すべき点

- ・2分の質疑応答時間を設けたが、活動内容に関して議論を活発化させるには時間が短かった。少なくとも4分以上は質疑応答時間を確保し、活動発表をさらに掘り下げていく展開を心がけたい。
- ・会場が明るかった為、スクリーンを使用した発表が見にくかった。改善案として、高性能のプロジェクターの確保、照明の明るさを変えられる会場の確保が必要だろうと思われる。また、パワーポイントに頼らない発表方法も一案と思われる。
- ・上記に関連して、ほぼすべての団体がパワーポイントを使用しての発表であり、発表方法に独自性が少ないと思われる。募集時に、パワーポイント以外の独自性ある発表を呼びかける等の対応を考慮してもよいと思われる。
- ・昨年、一昨年度に引き続いて、発表内容に関する資料を事前に配布することはできなかった。発表者が直前まで準備できないという時間的な問題もあるが、より深い理解やより具体的な提案につなげるためにも、参加団体への資料の事前配布をぜひ実現させたい。

■エコ活動のヒミツを探れ！～チームエコ記者の突撃取材～

参加した子どもたちが中心となり、県民環境フェアにブースを出展している団体の環境活動について、取材を行いました。これは、取材を行う中で他団体の活動を知りよく理解することで、今後の活動のヒントを見つけることを狙いとしたものでした。所属団体に関係なく4グループを作り、以下の4つをポイントに「突撃取材」を行いました。

- ① 取材対象団体のエコ活動の内容
- ② エコ活動を行った成果や良かった点
- ③ 現在抱えている悩みや課題
- ④ 子どもたちに望むことや期待すること

取材対象団体は、「ペダリストクラブ プラネット・チャオ」・「沖縄電力株式会社」・「琉球ジャスコ株式会社」・「気候アクションセンターおきなわ」の4団体で、各グループには1名ずつファシリテーター（進行役）を配置し、取材のスムーズな進行を考慮しました。



気候アクションセンターおきなわさん



プラネット・チャオさん



沖縄電力株式会社さん



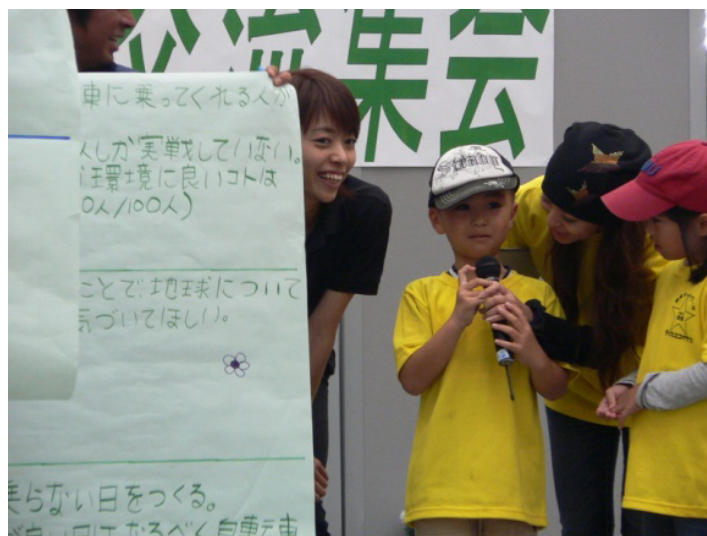
琉球ジャスコ株式会社さん

■取材結果のまとめワークショップ

取材を終えた各グループのメンバーは、ファシリテーターの進行のもと、取材結果を模造紙にまとめました。同時に、取材を通して気づいた「自分たちの今後の活動へのヒント」を整理し、グループ毎にメンバー全員が舞台上って発表を行いました。



たくさんの世代間交流が生まれました



一生懸命発表できました

◎沖縄電力株式会社取材チームの発表

沖縄電力では、社員全員が環境活動に参加する仕組みづくりを行っています。また、地域を汚さない発電所づくりや、リサイクル推進、地域の人と一緒に環境活動を行っています。

活動を行って良かった点として、きれいな電気を作ることが出来ている点が挙げられます。

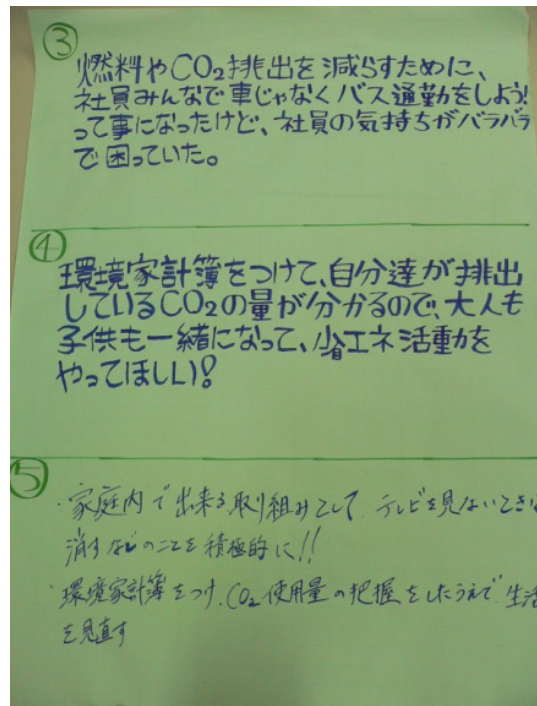
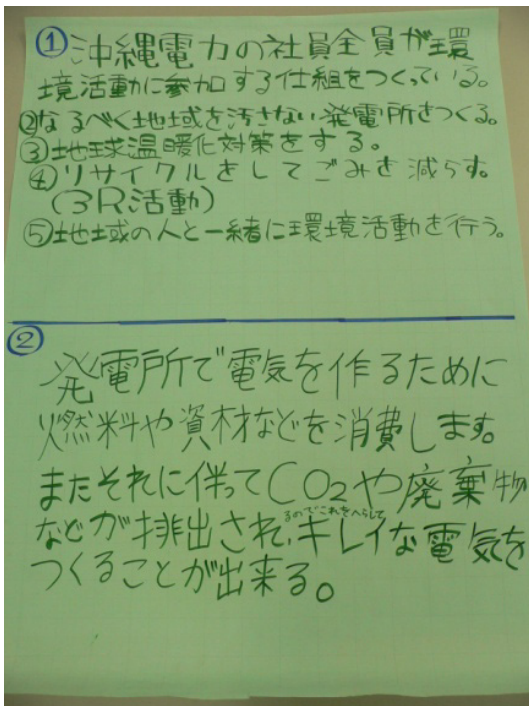
悩みとしては、社員全員がバス通勤をして二酸化炭素の排出を減らす活動をしようとしたけれども、社員 1 人ひとりの気持ちがまとまらず、うまく活動しきれない点が挙げられます。それでも根気強く推進活動を行った結果、最近では少しずつですが参加者が増えてきています。

私たち子どもに望むことは、環境家計簿をつけて、普段の生活で排出している二酸化炭素の量を知り、大人と一緒にエコ活動に取り組むことです。

取材を終えて、家庭内では使用していない電気を積極的に消すなどの取り組みをしていこうと思います。また、環境家計簿をつけて自分が排出している二酸化炭素の量を把握し、生活を見直していこうと思います。

◎沖縄電力株式会社電力本部環境室 安里健氏より

子どもたちがこのような活動を行っていることに感心します。大人を環境活動に引き込むことはなかなか難しいですが、子どもたちが活動しているのを見ると大人もついてきますので、ぜひ活動を継続してください。環境家計簿は、これらの活動の成果を測るのに最適です。活動とあわせてご利用をお勧めします。



◎ペダリストクラブ プラネット・チャオ取材チームの発表

プラネット・チャオでは、車やバイクの利用を控えて自転車の利用をアピールする活動を行っています。自転車に乗ると、①楽しい②健康にいい③環境にいいという3つのいいことがあります。そして地球の健康は自分の健康に繋がるのです。

現在抱えている悩みとしては、自転車を利用する人がまだまだ少ないことです。10人の人が自転車に乗ることが健康や環境に良いと思っても、積極的に自転車を利用してくれるのはそのうちの一人というのが現状です。

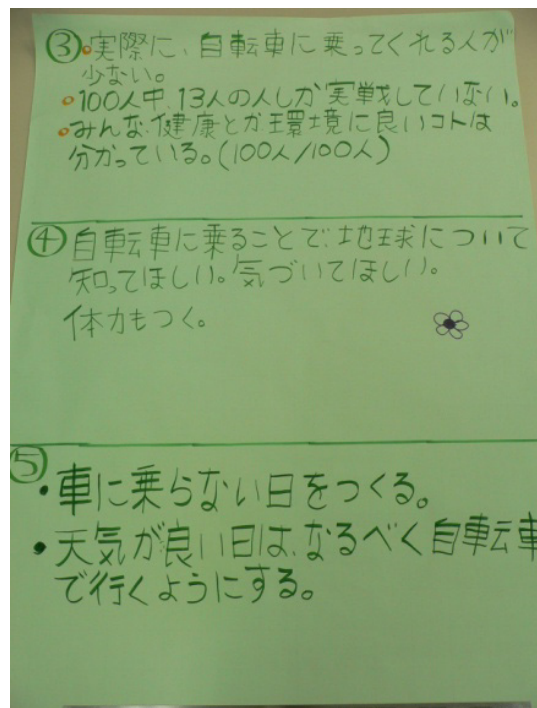
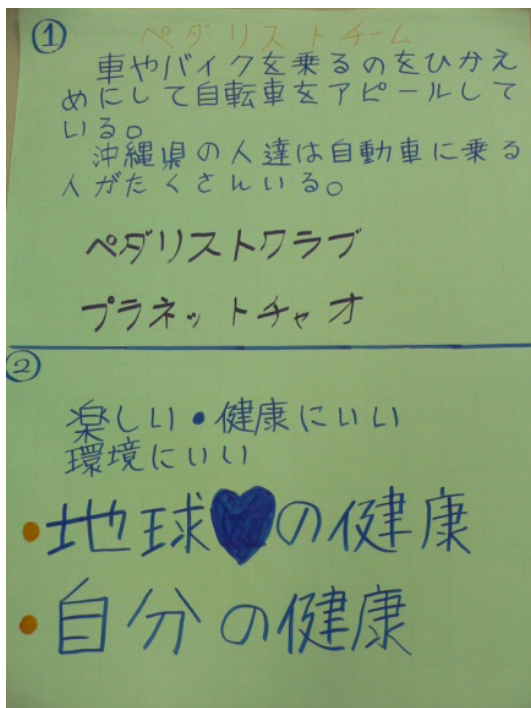
私たち子どもに望むことは、自転車にたくさん乗って体力をつけるとともに、地球についてもっと知って欲しいということです。

取材を終えて、車に乗らない日を作り、天気の良い日はなるべく自転車に乗ろうと思いました。

◎ペダリストクラブ プラネット・チャオ 安井楓氏より

子どもたちとの交流は大変意義あるものと思います。子どもたちに向き合うと、だれでも素直な気持ちにならざるを得ません。

建前でないコトやモノをどう伝えるか。そんな交流を通して、大人と子どもたちが励ましあえる場づくりが貴重だと考えます。



◎気候アクションセンター取材チームの発表

気候アクションセンターは、講演会や広報活動、エコ活動に取り組んでいる人々の紹介をすることによって、地球温暖化を沖縄県民に知らせるという活動を行っています。

活動を行って来て良かった点として、地球温暖化について活動している人達の情報交換の場が徐々に出来てきたことが挙げられます。

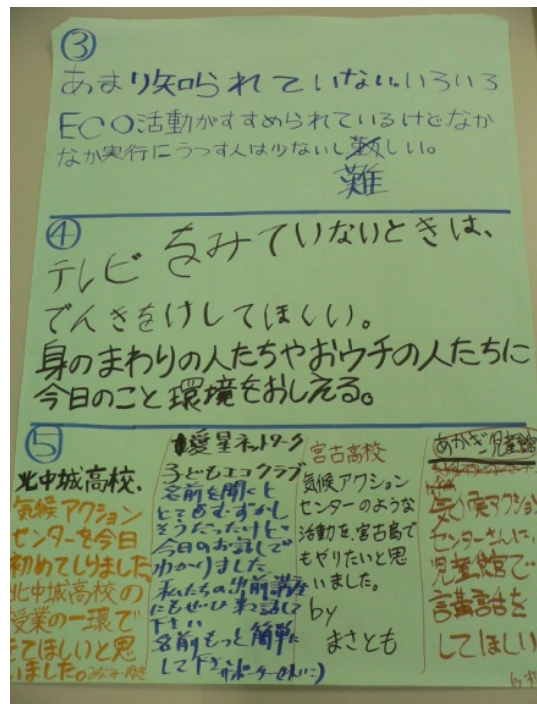
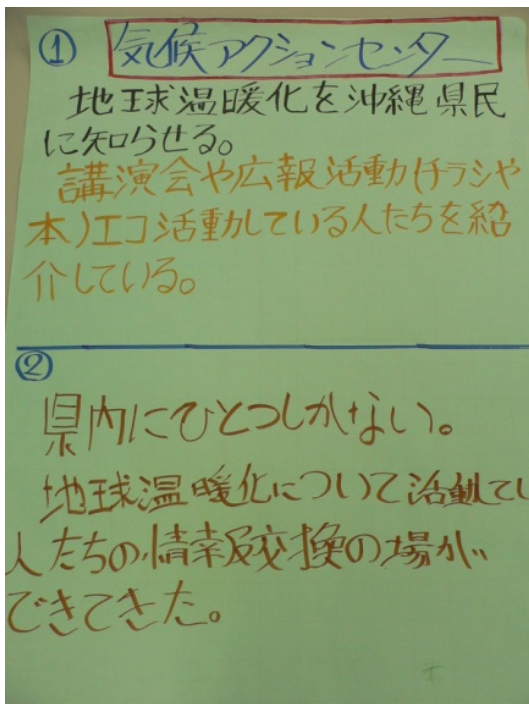
現在抱えている悩みとしては、団体そのものや活動内容があまり世間に知られていないこと、またエコ活動は広がってきてはいるが、やはり実行に移す人がまだまだ少ない点が挙げられます。

私たち子どもに望むことは2点あります。1つ目は、使用していない電気を消すなどの行動をする。2つ目は、家族を始めとして身の周りの人たちに、今日学んだことを伝えていくということです。

取材を終えて、私たち取材グループの中からは、授業や出前講座に来て欲しい、名前をもっと簡単にしたい、などの意見が出ました。

◎気候アクションセンターおきなわ・若林真也氏より

地球温暖化によって一番被害を受けるのは、今の大人ではなく、君たちの世代です。まわりにいる大人がハットするぐらい、頑張って環境によいことをしてください。そうすれば、周りの大人も変わります。



◎琉球ジャスコ株式会社取材チームの発表

琉球ジャスコでは、レジ袋を有料化し、マイバック普及活動を 10 月 1 日から実施しています。また、ダンボールの代わりに何度でも使用可能なコンテナを使い商品を運搬しています。店頭では牛乳パック・アルミ缶・食品トレイ・ペットボトルを回収しています。牛乳パックはトイレットペーパーへ、アルミ缶はアルミへ、食品トレイは溶解して駐車場の車止めや園芸用のプランター、ペットボトルは業者さまに買い取ってもらい、世界の子どもたちへ寄付しています。

活動を行って良かった点は、コンテナを使うことでダンボールゴミを減らすことが出来たことです。また廃棄物として捨てられていたものがリサイクルされ、商品として生まれ変わり活用されていることです。

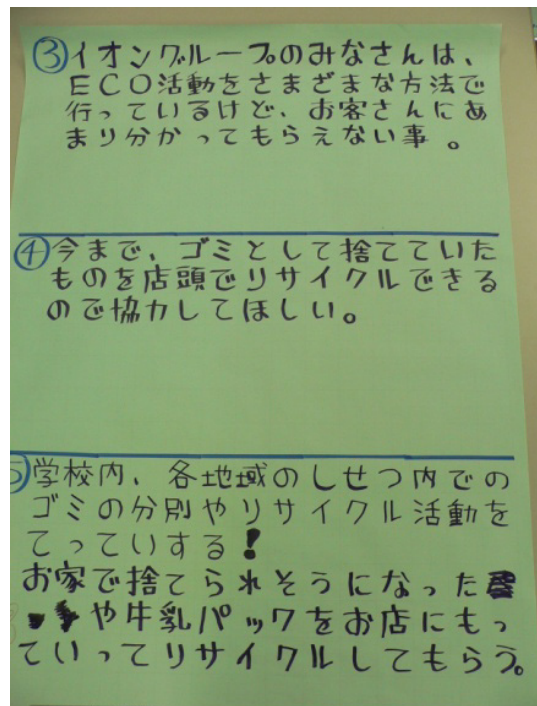
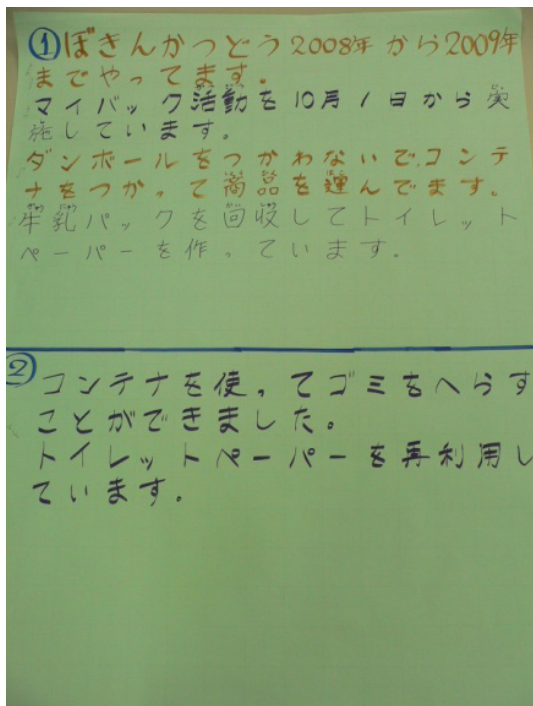
現在抱えている悩みとしては、環境にやさしい活動をさまざま行っているけれども、お客様に理解してもらうことがなかなか難しい点が挙げられます。

私たち子どもに望むことは、今までゴミとして捨てられてきたものをジャスコ店頭で回収してリサイクルすることができるので、ぜひ協力して欲しいということです。

取材を終えて、学校内や各地の施設でゴミの分別やリサイクルを徹底しようと思います。また、家庭内で捨てられそうになった牛乳パックをお店に持って行って、リサイクルしてもらおうと思います。

◎琉球ジャスコ株式会社 環境・社会貢献部 宮城美佐子氏より

小学生から高校生の子どもたちが、環境について意見を出し合って考える機会を設けることはとても素晴らしいことだと感じました。弊社の活動を多くの人にご理解いただくことが、琉球ジャスコの中で環境に携わっている私の務めだと思っております。子どもたち一人ひとりが出来ることから始めていくことで、環境について考えていってほしいと思います。



■チームエコ記者の突撃取材および取材結果のまとめワークショップのふりかえり

◎良かった点

- ・本交流集会の参加者が、県民環境フェアのブース出展団体取材するという初の形態により、これまでなかなか連携が図られていなかった本交流集会と県民環境フェアとのつながりを見直す契機となった。
- ・「チームエコ記者の突撃取材」は、特に小／中／高校生にとって、日頃話を聞く機会の乏しい民間企業やNPO法人の方から、直接生の声を聞き、自分たちの活動との比較やつながりを考えることのできる、貴重な経験となった。
- ・日頃の活動グループではなく参加者を横断的にグループ化した結果、1つのグループに、小学生から高校生や大人まで複数の発表団体関係者が集う形となった。この結果、世代間交流や異なる視野の交流が生まれ、参加者の満足度をより高めることにつながった。
- ・取材した内容を発表するだけで終わりではなく、取材された団体の担当者にも発表後に補足説明をしていただいたことで、ブース取材活動に深みが生まれた。また取材された団体にとっても、団体の取り組みを本交流集会の場でPRできる機会となり、取材をする側とされる側の双方にメリットのある空間となった。
- ・会場を移動して取材に出かけるというスタイルが、ずっと座りながら発表を聞くだけではない、動きのある交流集会を生み出し、その結果新たな活気をもたらした。
- ・各グループにファシリテーターが入ることで、取材やそのまとめ作業がスムーズに行われ、いずれのグループも制限時間内にまとめと発表を終えることができた。

◎改善すべき点

- ・主要な参加者であった小学校低学年生にとって、取材というのは若干難しい内容であった。また、子ども（特に小学低学年生）が大人の環境活動を十分理解することが難しいことも否めない。取材ノートをもう少し記入しやすく簡略化したり、取材の展開を工夫したりするなど、小学生のより自発的な取材姿勢を引き出す工夫が必要である。

平成 20 年度 第 15 回おきなわ環境交流集会
事業報告書

沖縄県文化環境部環境政策課

沖縄県那覇市泉崎 1-2-2

TEL 098-866-2183 FAX 098-866-2240

作成：NPO 法人ホールアース研究所沖縄事務所

沖縄県那覇市牧志 3-2-10-3F

TEL/FAX 098-862-3828

Mail:okinawa@wens.gr.jp